

精神看護技術論

必修

開講年次：3 年次前期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：精神看護援助論を踏まえて精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族とのかかわり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。

■**到達目標**：①精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する
②精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎守村 洋・伊東 健太郎

■**授業計画・内容**：

- 第1・2回 オリエンテーション
セルフケア理論を用いた事例展開①②（アセスメント、全体像）
グループワーク
- 第3回 セルフケア理論を用いた事例展開③（発表）
- 第4回 臨床指導者講義
- 第5・6回 精神看護における援助技術①
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第7・8回 精神看護における援助技術②
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第9・10回 精神看護における援助技術③
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第11・12回 【前半グループ】精神看護における援助技術④（臨床指導者および模擬患者の協力）
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
【後半グループ】映像視聴教育
- 第13・14回 【前半グループ】映像視聴教育
【後半グループ】精神看護における援助技術④（臨床指導者および模擬患者の協力）
グループワーク、ロールプレイ、プロセスレコード
- 第15回 精神看護技術論のまとめ ～精神看護実践へ向けて～

■**教科書**：『看護実践の根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『セルフケア概念と看護実践』／南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編（へるす出版）
『エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図』／川野雅資編（中央法規）

■**成績評価基準と方法**：出席参与度（30%）、提出物（プロセスレコード等・50%）、最終評価レポート（20%）により総合的に評価する。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。演習時にはプロセスレコードまたはアクションシーターの提出を課す。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
提出物 ・援助技術① ・援助技術② ・援助技術③ ・援助技術④ ・映像視聴教育	◎	◎		50 -10 -10 -10 -10 -10
最終評価レポート	◎	◎		20
授業態度	○	○	積極的な姿勢。	30
出席	○	○	2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：精神科看護を実践的に展開する上での技術を習得し、オレム・アンダーウッドによるセルフケア理論に基づいたアセスメントを考えます。終講直後の「精神看護学臨地実習」で活用するためにも、積極的に演習に臨むことを期待している。